

革職人に聞く

カンガルーの革は、種の保存のため生産量が制限されており、高級素材として重宝されています。そんなカンガルーの革などを扱い、主に衣類やアクセサリーを作る革職人、Nicholas Tsadilas さんにお話を伺いました。



Nicholas Tsadilas さん

祖父母、両親がレザーショップを営むギリシャで生まれた。1970年に渡豪し、翌年にフリーマントルでレザーショップを開業。5年後に店舗をパースの現在の所在地に移し、創業40年以上の歴史を持つ店「Sinikka」の店主、そして革職人。

Q この仕事に就いて何年くらいですか？

A もう記憶に無いくらいですね。最初に何を作ったのかも覚えていない。50年以上も前のことになるからね。

Q 衣類でしたら、一日で何着くらい作れますか？

A 工程によって分業しますが、全て手作業なので多くても、一日で15着程度でしょう。オーダーメイド(Made-To-Measure)の場合は、一日一着しか作れませんね。

Q デザインも自分でされているのですか？

A もちろん、自分でもデザインはしています。ヨーロッパの流行も取り入れながら。しかし、革製品については、ベーシックで、クラシックな形のものが一番よく売れますね。

Q 製造工程で一番難しいところは？

A 初めて作るデザインの物は確かに難しいですが、一度作ってしまえば次からは簡単に作れるようになります。経験が支えになっているのでしょうか。

Q ご自身が作られる製品の特徴は？

A 高いものにはそれなりの理由があります。素材となる革にもこだわりを持ち、最高級の革を使用しています。裏地にも気を配り、シルク等を使っています。

Q 一番人気の商品は？

A 一番人気の商品は、シープスキンを使った製品ですが、海外からの観光客にはオーストラリアならではのカンガルーやクロコダイルの革製品も好評です。

コラム

オーストラリアの革

■オーストラリアが原産国

カンガルーの革は、ここオーストラリアが原産国です。革の形状から、利用可能な部分が少なく、更に活発に動くカンガルーは傷が多いため、傷の無いきれいなカンガルー革はとても貴重です。

■強い！軽い！柔らかい！

強度が高く、牛革に比べ抗張力がはるかに高いと言われます。

また、軽量で柔らかいため、ビジネスシューズからスポーツシューズ、ゴルフグローブなどのスポーツ用品まで幅広く使われています。そして、布のように薄く加工することも可能なので、カンガルーレザーのジャケットは着心地抜群です。

■オーストラリアならではの？

カエルの革を使った製品もあります。オーストラリアでは、オオヒキカエルの大量発生が大きな社会問題になっているため、その有効利用法としてカエル革のコインケースや、スニーカーなどが考案されています。

取材協力：Sinikka 住所：117 Barrack St. Perth 電話番号：08 9325 9733 ウェブサイト：www.sinikka.com

今特集の『ハンドメイド in パース』は、いかがでしたか？各職人さんが創り出すこだわりの逸品をぜひパースで手に入れてみて下さい。きっとそれぞれの“ならではの”の良さを感じるでしょう。(編集部より)